

令和7年度 第2回中央区協議会  
(代表会)  
会議資料②

地域分科会からの報告事項

- |                     |      |
|---------------------|------|
| (1) 中地域分科会【区振興課】    | P. 1 |
| (2) 東地域分科会【東行政センター】 | P. 3 |
| (3) 西地域分科会【西行政センター】 | P. 5 |
| (4) 南地域分科会【南行政センター】 | P. 7 |

令和7年7月10日開催

中央区協議会  
(代表会)



## (中地域分科会) 地域課題に係る報告 (令和7年7月)

件名	災害時の「自助」に関すること ・「自宅避難に向けての取組」及び「自宅周辺の 情報取得の方法」	開催月	令和7年6月
内容	<p>○背景又は取り上げた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神・淡路大震災の教訓を活かし、自宅に置いて様々な地震対策が講じられてきた。自身や家族が助かるために、自助について話し合っていたきたく提案した。</li> <li>・一昨年の大雨の際、家の周りで起きていることがわからず、不安を感じた。地域内で情報どうやって共有しているのか、行政との連携はどう行えばよいのか気になり提案した。</li> </ul> <p>○内容（他の委員に聞きたいこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個人や家族での取組</li> <li>2 地域での取組や防災訓練（避難所計画への参加やHUG 訓練体験の有無）</li> <li>3 隣保のつながりなど長期的に継続できる人間関係づくり</li> <li>4 有線放送など、どのように身近な情報を取得しているか</li> <li>5 防災準備はどの程度まですべきか、賞味期限のチェックはどうしているか</li> </ol>		
所管課	中央区 区振興課		
質問 ・ 意見 ・ 回答	委員からの主な質問・意見等	回答	
	1 個人で家族での取組について、緊急時の連絡方法や集合場所をあらかじめ決めておくことが重要である。また、携帯電話が使えない状況も想定すべきである。	<意見>	
	2 地域での取組や防災訓練について、自主防災隊による月1回の活動や、HUG訓練の実施など、積極的に取り組んでいる。企業が集まる地域では、企業との連携も今後重要になると思う。	<意見>	
	3 自治会加入率の低下が根本的な問題であり、一戸建てとマンションの情報把握の違いも考慮しながら、各自治体や地域で状況を把握していくことが重要である。	<意見>	

	<p>4 有線放送は浜松市内ではほとんど使用されていない。地震や大雨時の避難命令の伝達方法について、携帯電話の緊急情報が取得できない可能性も考慮し、把握しておく必要がある。</p>	<p>&lt;意見&gt;</p>
	<p>5 防災準備について、発電機やバッテリー、照明器具、7日分の食料と水などが必要だと思う。</p> <p>賞味期限については、ローリングストックを意識することが大事だと思う。</p>	<p>&lt;意見&gt;</p>

(東地域分科会) 地域課題に係る報告 (令和7年7月)

件名	浜松市こども計画について		開催月	令和7年6月
内容	<p>○背景又は取り上げた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東地域分科会に設置されている地域福祉委員会は令和5年度から「こどもに視点をあてた福祉」を協議テーマとして設定している。</li> <li>・5月14日に開催した令和7年度第1回同委員会においてこども若者政策課を招き、3月に策定された「浜松市こども計画」について説明を受けた。</li> <li>・その後、東地域分科会において活動報告を行い、委員に情報を共有した。</li> </ul> <p>※「質問・回答」欄については地域福祉委員会での質疑応答から抜粋して記載</p>			
所管課	こども若者政策課			
質問・意見・回答	委員からの主な質問・意見等		回答	
	1 計画の着実な推進のためPDCAの中のチェックが重要だと思うが、どうチェックしていくのか。		1 成果を取りまとめ、庁内体制（3層構造）のほか、関係機関として附属機関である「浜松市社会福祉審議会児童福祉専門分科会」にもご意見を頂き、事業に活かしていく。5か年計画だが、見直しを行い必要なものは随時、新規事業として追加していく。	
	2 「子どもの生活実態調査」(子育て支援課)における「朝食の欠食状況」について。何をもって朝食と考えるのかも家庭ごとに違う実態がある。親教育こそが重要だと感じている。		2 基本的な生活習慣を身につけることが大切だと思う。計画のなかでも「食育を通じた基本的な生活習慣の形成」として掲載しており、食育を推進していく。	
	3 民間学童保育に携わっているが、長期休暇は利用が多く例年大変な状況。今年は平日についても、これまでよりも利用希望が多い。待機児童対策はどのようにされているのか。		3 令和7年度は待機児童対策の一つとして、「夏季休業期間における臨時放課後児童会モデル事業」を上島小学校(中央区)と赤佐小学校(浜名区)で実施していく。	



## (西地域分科会) 地域課題に係る報告 (令和7年7月)

件名	外国人や障がい者との交流について	開催月	令和7年4月、5月
内容	<p>○背景又は取り上げた理由</p> <p>外国人や障がい者の方は外部の人と交流する機会が少なく、内輪で固まりがちに感じている。これらの人たちとの交流が、ごみ問題や自主防災などへの対応にもつながる手立ての一つになると考えるため。</p> <p>○他の委員に聞きたいこと</p> <p>外国人や障がいをもつ方々とうまく交流できている地域は、どんな方法でやっているか教えてほしい。</p> <p>○内容</p> <p>委員同士で情報交換や意見交換などを行った。</p> <p>(委員からの情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度 舞阪地区社会福祉協議会「会費」のお願いについて(日本語版、ポルトガル語版)</li> <li>・篠原地区の自治会における(公財)浜松国際交流協会の通訳サービス利用について</li> <li>・入野地区での翻訳・通訳サービス利用について</li> <li>・(伊佐見地区社会福祉協議会) ふれあい広場 2024 について</li> <li>・(伊佐見協働センター) やさしい日本語講座</li> <li>・(入野地区社協サロンこんぺいとー) こんぺいとー音楽会</li> <li>・第2回篠原地区ボッチャ大会</li> <li>・(雄踏地区民生委員・児童委員協議会) 令和7年度 グラウンドゴルフ開催案内</li> <li>・(雄踏地区民生委員・児童委員協議会) ムンド・デ・アレグリア(外国人学校)との交流について</li> <li>・ゆうとう納涼祭やふれあい広場での交流について</li> </ul>		
所管課	国際課		
質問 ・ 意見 ・ 回答	委員からの主な質問・意見等	回答	
	1 外国人が気軽に日本語学習できる場所を増やしてほしい。	1 HICE やU-ToC、日本語ボランティアなど多様な学習機会を提供している。	



(南地域分科会) 地域課題に係る報告 (令和7年7月)

件名	雨水対策について ・浜松市総合雨水対策計画	開催月	令和7年6月
内容	<p>○背景又は取り上げた理由</p> <p>豪雨被害により浸水が発生した場合に、田んぼは貯水能力があるため有効であるが、田んぼが宅地等に転用され減少している。転用地は防災エリアのところもある。学校には貯水槽の整備がされているところもあるが、南地域全体の雨水対策について知りたいため。</p> <p>○内容 (他の委員又は行政に聞きたいこと)</p> <p>・浜松市の雨水対策の取り組みについて</p>		
所管課	河川課		
質問 ・ 意見 ・ 回答	委員からの主な質問・意見等	回答	
	1 芳川エリアには静岡県が管理する芳川と浜松市が管理する東芳川が流れているが、河川の整備において、静岡県と浜松市はどのように連携し事業を進めているか。	<p>1 雨水対策は、関係機関の連携が必要と考えている。浜松市総合雨水対策計画には、静岡県が取り組む対策を位置付けている。</p> <p>また、県主体の計画の中にも、浜松市が取り組む対策を位置づけている。このように県と市、双方が連携して計画を策定している。河川の整備を行う段階においても十分に調整し事業を進めている。</p>	
	2 内水氾濫の原因の一つである竹林や雑木の除去対策についてお聞きしたい。	<p>2 内水氾濫は、放流先河川の水位が高くなり水が川に流れない状況や排水路などの能力不足で発生する。放流先の河川に水が流せなければ、対策は難しいため、まずは東芳川の整備に取り組んでいる。</p> <p>また、静岡県において、管理する芳川の整備も進めていくと聞いている。</p> <p>また、排水路や側溝の能力不足が確認されている箇所については、局所的に改良工事を進めている。</p>	

		<p>竹林や雑木があると水の流れを阻害し、水位上昇の原因になる。指摘された場所は、芳川沿いのことと思われるが、今回のご意見を浜松土木事務所へ情報共有する。</p>
	<p>3 河輪地区の学校は避難所になるが、校庭貯留を行ったときの災害時の取扱いについて教えていただきたい。</p>	<p>3 校庭貯留を行うにあたっては、教育施設課などの関連部局と連携し、グラウンドの高さ関係等を調べた上で設計している。校庭の周りに土を盛るなど、水を溜める構造とし、さらに吐き口に金属プレート製のオリフィスを取り付け、排水管を小さくすることで放流先河川に流れる水の量を抑制する。</p> <p>災害時は、このオリフィスを外し、水を流れ易くすることで、校庭貯留は運用しない方針としている。</p>